

薬剤部からのお知らせ 2020 No.27



2020年8月5日発行

院外処方薬品情報

使用上の注意の詳細については電子カルテの JUS D.I.を参照して下さい。

2020年8月16日開始薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
イブランス錠 25mg (パルボシクリブ)	抗悪性腫瘍剤
イブランス錠 125mg (パルボシクリブ)	抗悪性腫瘍剤
フィコンパ細粒 1% (ペランパネル水和物)	抗てんかん薬
ボンゾール錠 100mg (ダナゾール)	子宮内膜症、乳腺症治療剤
ラゾダ錠 20mg (ルラシドン塩酸塩)	抗精神病薬
ラゾダ錠 40mg (ルラシドン塩酸塩)	抗精神病薬
ロケルマ懸濁用散分包 5g (ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物)	高カリウム血症改善剤
ロケルマ懸濁用散分包 10g (ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物)	高カリウム血症改善剤
インスリンリスプロ BS 注ソロスター-HU「サノフィ」(インスリンリスプロ)	インスリン製剤
ソリクア配合注ソロスター (インスリングルタミン、リキシセナチド)	インスリン製剤
オゼンピック皮下注 0.25mgSD (セマグルチド(遺伝子組換え))	持続性 GLP-1 受容体作動薬
オゼンピック皮下注 0.5mgSD (セマグルチド(遺伝子組換え))	持続性 GLP-1 受容体作動薬
オゼンピック皮下注 1mgSD (セマグルチド(遺伝子組換え))	持続性 GLP-1 受容体作動薬

(パルボシクリブ)

▶イブランス錠 25mg

㊟

Ibrance 25mg/錠

〔ファイザー〕

〔薬価〕5,679.7 円/錠

▶イブランス錠 125mg

㊟

Ibrance 125mg/錠

〔薬価〕22,978.1 円/錠

【効】ホルモン受容体陽性かつ HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌

【用】(内) 内分泌療法剤との併用において、1日1回 125mg を3週間連続して投与し、その後1週間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。

(ペランパネル水和物)

▶フィコンパ細粒 1%

Fycompa 10mg/g

〔エーザイ〕

〔薬価〕1,068.9 円/g

【効】①てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)

②他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法

【用】(内) ①[単剤療法]成人及び4歳以上の小児には1日1回2mgの就寝前投与より開始し、その後2週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。維持用量は1日1回4～8mgとする。2週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高8mgまでとする。

〔併用療法〕成人及び 12 歳以上の小児には 1 日 1 回 2mg の就寝前投与より開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて 2mg ずつ漸増する。本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は 1 日 1 回 4～8mg、併用する場合の維持用量は 1 日 1 回 8～12mg とする。1 週間以上の間隔をあけて 2mg 以下ずつ適宜増減するが、1 日最高 12mg までとする。

4 歳以上 12 歳未満の小児には 1 日 1 回 2mg の就寝前投与より開始し、その後 2 週間以上の間隔をあけて 2mg ずつ漸増する。本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は 1 日 1 回 4～8mg、併用する場合の維持用量は 1 日 1 回 8～12mg とする。2 週間以上の間隔をあけて 2mg 以下ずつ適宜増減するが、1 日最高 12mg までとする。

②〔併用療法〕1 日 1 回 2mg の就寝前投与より開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて 2mg ずつ漸増する。本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は 1 日 1 回 8mg、併用する場合の維持用量は 1 日 1 回 8～12mg とする。1 週間以上の間隔をあけて 2mg 以下ずつ適宜増減するが、1 日最高 12mg までとする。

(ダナゾール)

▶ボンゾール錠 100mg

Bonzol 100mg/錠 [田辺三菱]

〔薬価〕171.4 円/錠

【効】①子宮内膜症 ②乳腺症

【用】(内) ①1 日 200～400mg を 2 回に分け、月経周期第 2～5 日より、約 4 ヶ月間連続投与する。

②1 日 200mg を 2 回に分け、月経周期第 2～5 日より、4～6 週間連続投与する。

(ルラシドン塩酸塩)

▶ラツダ錠 20mg

Latuda 20mg/錠 [大日本住友]

〔薬価〕178.70 円/錠

▶ラツダ錠 40mg

Latuda 40mg/錠

〔薬価〕328.90 円/錠

【効】①統合失調症

②双極性障害におけるうつ症状の改善

【用】(内) ①40 mg を 1 日 1 回食後投与する。1 日量は 80 mg を超えないこと。

②20～60 mg を 1 日 1 回食後投与する。開始用量は 20 mg、増量幅は 1 日量として 20 mg とし、1 日量は 60 mg を超えないこと。

(ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物)

▶ロケルマ懸濁用散分包 5g

Lokelma 5g/包 [アストラゼネカ]

〔薬価〕1,095.2 円/包

▶ロケルマ懸濁用散分包 10g

Lokelma 10g/包

〔薬価〕1601.0 円/包

【効】高カリウム血症

【用】(内) 血液透析施行中の場合には、1 回 5g を水で懸濁して非透析日に 1 日 1 回経口投与する。

(インスリンリスプロ(遺伝子組換え))

▶インスリンリスプロ BS 注ソロスターHU「サノフィ」(後劇)

Insulin Lispro 300 単位/3mL/キット [サノフィ]

〔薬価〕1,258 円/キット

〔貯法〕禁凍結、遮光、2～8℃

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病

【用】(注) 1 回 2～20 単位を毎食直前に皮下注するが、ときに投与回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は 1 日 4～100 単位である。

▶ソリクア配合注ソロスター (劇)

Soliqua (配合剤) 3mL/キット [サノフィ]

〔薬価〕6,497 円/キット

〔貯法〕禁凍結、遮光、2～8℃

1 キット(3mL) 中：
インスリングルルギン(遺伝子組換え) 300 単位
リキシセナチド 300μg

【効】インスリン療法が適応となる 2 型糖尿病

【用】(注) 5～20 ドーズを 1 日 1 回朝食前に皮下注射する。1 日 1 回 5～10 ドーズから開始し、患者の状態に応じて増減するが、1 日 20 ドーズを超えないこと。

(セマグルチド(遺伝子組換え))

▶オゼンピック皮下注 0.25mgSD (劇)

Ozempic 0.25mg/0.5mL/キット [ノボノルディスク]

〔薬価〕1,547 円/キット

▶オゼンピック皮下注 0.5mgSD (劇)

Ozempic 0.5mg/0.5mL/キット

〔薬価〕3,094 円/キット

▶オゼンピック皮下注 1.0mgSD (劇)

Ozempic 1.0mg/0.5mL/キット

〔薬価〕6,188 円/キット

〔貯法〕禁凍結、遮光、2～8℃

【効】2 型糖尿病

【用】(注) 週 1 回 0.5mg を維持用量とし、皮下注射する。週 1 回 0.25mg から開始し、4 週間投与した後、週 1 回 0.5mg に増量する。週 1 回 0.5mg を 4 週間以上投与しても効果不十分な場合には、週 1 回 1.0mg まで増量することができる。